

報道関係者 各位

放送批評懇談会

**発表！2020年10月度ギャラクシー賞月間賞**

放送批評懇談会が日本の放送文化の質的な向上を願い、テレビ、ラジオの番組、関係者を顕彰する「ギャラクシー賞」。ことしで58年の歴史を誇ります。

ギャラクシー賞テレビ部門では、「ギャラクシー賞」活動の一環として、毎月、自主的に番組を推奨する「月間賞」を選定しております。今月の月間賞を別紙のとおり発表いたしますので、貴媒体でお取り扱いのほどお願い申し上げます。

ギャラクシー賞テレビ部門は、この日常視聴に基づく「月間賞」と、各社からの応募作品を併せて審査を重ね、毎年の受賞作を決定いたします。贈賞式にて、大賞をはじめとする各賞が決定、表彰されます。

今後の選考にもご注目いただければ幸いです。

●放送批評懇談会について：1963年の発足以来、評論家、ジャーナリスト、マスコミ研究者などを会員に、各種の活動を展開しております。「GALAC（ぎやらく）」の編集・発行、優れた番組・CMを顕彰する「ギャラクシー賞」の選考・運営、メディア界の動きを解説するセミナーやシンポジウムの開催などを行なっています。

●過去の受賞作をお探しの場合は「ギャラクシー賞データベース (<https://houkon.jp/galaxy-database/>)」をご活用ください（掲載内容：作品名、放送局・制作社名、制作者、出演者、受賞理由など）。

放送批評懇談会

ASSOCIATION OF BROADCAST CRITICS

◆お問い合わせ先

NPO法人 放送批評懇談会／担当：福島
〒160-0022 新宿区新宿 5-10-14 中村ビル 2F
Tel：03-5379-5521 Fax：03-5379-5510
kondankai@houkon.jp <https://houkon.jp/>

放送批評懇談会



2020年10月度ギャラクシー賞月間賞

NHKスペシャル「香港 激動の記録～市民と“自由”の行方～」

10月18日放送 21:00～21:50 日本放送協会

「国家安全維持法」施行以降、状況が大きく変化した香港の現況を伝えるレポート。カメラは民主化を求める学生や市民の運動の側に密着しながら、中国政府寄りの経済人や安定した経済の発展を期待する財界の側へもアプローチして、その深い取材によって香港が抱える問題に迫っている。

しくじり先生 俺みたいになるな!!「ガセネタに惑わされないための授業」

10月19日放送 24:15～24:45 テレビ朝日

カズレーザーによる「ガセネタに惑わされないための授業」は理路整然としてとてもわかりやすくそのまま教材になるレベル。だが最後に、その中で紹介されていた理論がカズによるデマであることが明かされる。人は自分だけは騙されないと思いがちだが、そうではなく、いかに自分も情報を信じやすいかを実感させられる鮮やかな授業だった。

サイエンス ZERO 「“羽毛のある類人猿”カラス 驚異の知力に迫る」

10月25日放送 23:30～24:00 日本放送協会

人間社会の近くにいて、とかく悪者にされているカラス。しかしその生態は興味深く、鳥類きつての頭脳派である。番組では宇都宮大学の杉田昭栄名誉教授の研究をもとに、「数を理解する」「道具を使う」「先を読む能力がある」などカラスの知能の高さを解説し、その驚くべき能力を明らかにして、なぜこんなに賢いのかに迫る。カラスファン必見である。

光秀のスマホ

10月12～14、26～28日放送 23:40～23:45 日本放送協会

「戦国時代にスマホがあったら」という発想、そしてほとんどスマホの画面のみでドラマが進行していく演出が新しい。そうでありながら、もし明智光秀がスマホを使っていたらこうなっていたらと思うさせるリアリティもあった。スマホの画面の作り込みの細かさ、光秀の心の動きを声と指先だけで表現する山田孝之の演技も見事。